

情報連絡員報告総括表（令和4年6月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食料品	2	2			3	1	2	2		1	3		1	2	1		4			4		1	3			2	2
	繊維工業	1	2			2	1	2	1			3			3			3			3			3		1	2	
	木材・木製品		1			1			1			1			1			1			1			1			1	
	紙・紙加工品			2	1	1		2			1		1			2		2			2		2					2
	印刷		1			1		1			1			1			1			1			1			1		
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			2	1		2	1		3			3			3			2	1
	鉄鋼・金属			1			1		1				1			1		1			1		1				1	
	一般機器	1	1	1	2	1		2	1			2	1	1	1	1		3			1	2	3			1		2
	電気機器			1			1				1					1			1			1	1					1
	輸送機器			1			1		1			1				1			1			1			1		1	
その他																												
	小計	4	9	7	3	12	5	10	9	1	2	14	4	2	10	8		18	2		13	7	2	17	1	2	10	8
非 製 造 業	卸売業		2			1	1	2			2			1	1		2						2			1	1	
	小売業	1	3	2		4	2	4	2		2	4		1	5		3	3					6			3	3	
	商店街		1				1	1			1			1			1						1			1		
	サービス業	1	3	1					4	1		5		3	2		4	1					5			4	1	
	建設業		2	2					3	1		2	2		2	2		2	2				3	1		2	2	
	運輸業			1					1			1				1			1				1				1	
	その他		1						1			1			1			1					1			1		
	小計	2	12	6		5	4	7	11	2		14	6		9	11		13	7				19	1		12	8	
	合計	6	21	13	3	17	9	17	20	3	2	28	10	2	19	19		31	9		13	7	2	36	2	2	22	16

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年6月～令和4年6月)

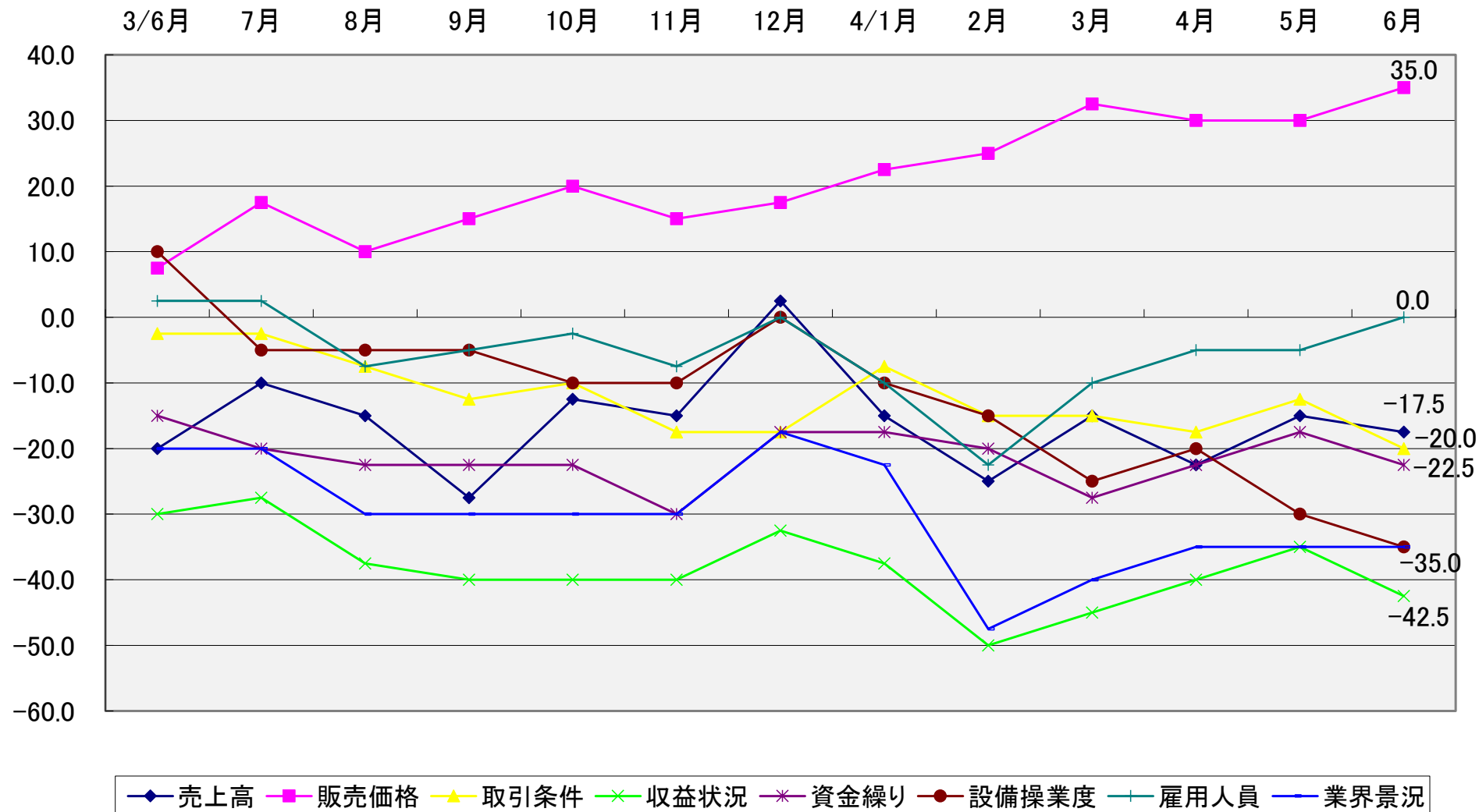
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	6月	増減
売上高	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-2.5
販売価格	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	35.0	5.0
取引条件	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-7.5
収益状況	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-7.5
資金繰り	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-5.0
設備操業度	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-5.0
雇用人員	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	5.0
業界景況	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年6月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等・企業経営・業界での問題点)	
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。また販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いてきたが、旅行者の増加などにより、お土産物の需要がやや回復してきた。一方でウクライナ侵攻の影響による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。また、今年はコロナの影響もあり昨年同様に、通常総会を5月25日に書面決議中心で実施した。役員改選により、新理事長には八王子屋の廣田氏が就任した。	
	醤油味噌	ロシア・ウクライナ問題が長期化する中、全世界に悪影響を与え、原油をはじめとした工業製品のみならず、穀物食品原料の相場が上昇している。そこに追い打ちをかけるように記録的な円安で輸入品の相場がますます上昇している。そのような環境の中、県内事業者は昨年から今春にかけてのコストアップ分を納入価格に織り込むように努力しているが、原料・資材の値上がり幅が大きく、原価高の生産を強いられている。原価の高い醤油味噌が製品化され、出荷した時の収益悪化が心配である。良い情報としては、4月に令和3年度補正加工食品輸出産地確立緊急対策の補助金申請をした案件に補助金交付の決定がなされた。	
	製麺	ようやく商品が動きだしているように感じられる。小麦粉の高騰により、「輸入小麦等食品原材料価格高騰緊急対策事業」第1回の公募が始まった。業界をあげて取り組んでいきたいと思っている。ガソリン、重油、資材の高騰により、厳しい状況が続いているが、前向きにとらえていく。	
繊維工業	テントシート	引き続き、仕入価格が上昇している。	
木材・木製品	木材	急激な円安やウクライナ情勢により、欧州材を中心とした輸入材の仕入が依然として困難な状況が続いている。住宅資材全般の品薄状態も続き、前月比ではやや弱含み傾向であるが、前年同月比では原木、製品共に高値維持で推移している。	
製 造 業	紙器段ボール	中国・上海等のロックダウンで自動車、家電部品の物流に影響が出て、自動車関連の段ボール需要が減少した。その他の分野では、例年並みの動きになった。6月下旬からの猛暑で、飲料・冷菓関係の段ボールの需要増に期待するところである。仕入れの段ボールシートの値上げが決定したが、段ボール製品への値上げが100%還元出来なかったり、ユーザーへの値上げ交渉が長びいている要因で、利益面ではマイナスが大きくなっている。	
	紙・紙加工品	古紙	7月の仕入量：段ボール・約95±6%、新聞、チラシ・約96±7%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約91±12%と思われる。コロナ明けムードで県内・国内の内需は高まりつつあるのか、集荷量が増える組合員と減る組合員がいる印象で、地域の紙の消費と古紙の集荷量も組合員によって明暗があるようで参議院選挙モード等が隠れてしまう内容である。135円前後の円安で輸出古紙価格の上昇により、手取りアップが可能な環境下で品質の悪い商品がそれなりの価格帯で輸出されている事もあるようである。輸出ができれば、目先の収益が上がるが、コンテナ不足や国内消費が堅調で輸出余力は少なく、国内の製紙会社様からの紙原料古紙の発注量は例年通り以上で未達状態が見られるようである。ロシアのウクライナ特別軍事作戦とアメリカの金利上昇や円の増刷と異次元の金融緩和等によって、現金資産が目減りしているとも考えられ金銭による信用力見直しが出来ないかと考えている。古紙や金属類の持ち去りとゴミの置き去り行為も多発しており負担増の様である。
	印刷	印刷	コロナ感染症による組合活動の自粛は、安全対策をはかりながら少しずつ戻りつつある。特に親睦事業は慎重になるが、3年ぶりの開催を目指して計画中である。
窯業・土石製品	伊賀焼	少しずつ注文数やお客様の来客数も回復してきたように感じる。しかしながら、原料や燃料費の高騰により頭を悩ませている。個人、家族経営が多く、なかなか価格転嫁に結びつけられずにいる。昔ながらの付き合いもあり、頭を悩ませている。	
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は自動車関連は少し回復傾向にあったが、メーカーの生産ラインの停止等あり、生産は5月と同様であった。建築関連部品は横ばい、ガス関連部品も横ばいの状態であった、ウクライナ情勢の影響に起因する、原油価格の高騰、原材料(特に金属類)の高騰は若干落ち着いた状況であった。収益面は厳しい状況が続いている。	
一般機器	四日市	実状、業況は国内コロナの影響は小康状態となったが、半導体不足や長期化する紛争や急激な円安により材料不足、特に仕入れ価格の上昇などで引き続き企業経営に悪影響が出ている。	
	津市	某企業の生産調整は収束する気配はまだなく、関連部品については受注が減少したままである。ただし、得意先によっては急激な受発注を避けるためか、在庫をいつもより多く持つというところもあり、大きな受注減には至っていない。上海のロックダウンや半導体不足等が収まらない事には、今の状況から抜け出せない感じがして先行きが見通せない。	
	伊勢	売上高は増え、収益状況も良くなっているが、モノ不足は続いている。中国のロックダウンの影響で部品が入って来ず仕掛が増え、生産計画に支障が出始めている。次に売上への影響が心配になってくる。	

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年6月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	電気機器	鳥羽	受発注量はまだまだ厳しい状況である。5月は40%ダウンし、6月は5月対比で20%アップではあるものの、原材料、副資材の高騰が止まらず、大変厳しい。
	輸送機器	鈴鹿	当組合の通常総会を開催したが、半導体不足に起因するサプライチェーンの混乱に加え、自動車のモデルチェンジのサイクル見直しによる試作品の需要減少や設備投資の鈍化により、量産部品・スポット部品・設備開発のいずれの組合員も厳しい決算となったようである。唯一、リサイクル関連の分野だけは資材費高騰の恩恵を受け好況であった。
非 製 造 業	小売業	青果	野菜前半：全体的に価格が落ちついてきている。特に静岡産、長崎産のじゃがいもは気温が上がって需要が弱まり、値を下げた。ピーマン、なすは順調に入荷し値下がりした。ズッキーニは作付面積は年々広がり、塩、こしょうで焼くだけで楽しむ、和・洋・中を問わず、どんな味付けにも合い、価格もお手頃である。梅は和歌山産の南高梅の入荷が多くなってきた。らっきょうは鳥取産が最盛期である。 野菜後半：全体的に荷動きが悪い。トマトは晴天が続いているため、入荷が多く値下がりしている。キャベツは群馬、長野産が増えており、お値打ちである。なす、レタスも安くなっている。 果物前半：メロンの出荷がピークであり、愛知産のイエローキング、熊本産のクインシーメロン等の種類も豊富で今が美味しい。ぶどうは鳥根産のデラウェアが最盛期となり、値下がりした。さくらんぼは露地物の入荷が増えている。 果物後半：山形産のさくらんぼが出荷のピークを迎え、お手頃である。山梨産の桃(白川白鳳)が最盛期である。すいかは愛知産の露地物が値下がりしている。蒲郡産のハウスみかん(ガマゴオリ)の贈答用の引き合いが強い。今年は雨が少なく、平年より甘みが増し品質も良い。
		自転車	梅雨の季節に入っても今年は長雨が少なく、天候に左右されやすい自転車業界においては大変嬉しい日々が続く中、人と人が接触しない生活様式が日常になったことから、自転車利用の増加やそれに伴うスポーツ車や電動アシスト自転車の需要の高まりが見られた。しかし、コロナ禍に端を発した商品供給の極端な遅れや価格の上昇により、小売業界はかなり厳しい状況になっている。(一財)自転車産業振興協会より2021年(1~12月)の動向、自転車生産、輸入統計が発表された。(1)国内生産台数84万3千台(前年比97.0%)そのうち、電動アシスト車は全体の78%を占め、65万8千台であった。(2)輸入台数605万台(前年比93.8%)であり、国内向需要台数は689万3千台(前年比96.8%)で、国内需要は縮小と厳しいものとなっている。
		電器	今月は梅雨に入ったと思いきや一週間で明けてしまい、おおよその時期に真夏への準備(販促関連など)を行うところへ一気に真夏がやってきてしまった。特にエアコン関連は問い合わせや注文があり、売上を伸ばす要因になるが、各メーカーのエアコン(他の家電品も)が品切れとなっているため、事前に在庫をストックした販売店は良いと思うが、なかなか入荷してこないため、苦戦していると思われる。未だに各商品の品不足が続いているので、早く円滑に入荷する状況へ転換してほしい。
		石油	経済財政運営と改革の基本方針(骨太方針)2022【抜粋】 2022年6月7日の閣議決定から、①今後10年間に150兆円超の投資を実現するため、成長促進と排出抑制・吸収を共に最大化する効果を持った「成長指向型カーボンプライジング構想」を具体化し活用する。 ②エネルギーを起点とした産業のGXに向け、脱炭素投資を後押しする重点的な環境整備を行う。自動車については、将来の合成燃料の内燃機関への利用も見据え、2035年までに新車販売で「いわゆる電動車(電気自動車・燃料電池自動車・プラグインハイブリッド自動車)100%とする目標等に向けて、蓄電池の大規模投資促進や車両の購入支援、充電・充てんインフラの整備等に集中的な導入を図るとともに中小サプライヤー等の業態転換を促すとした。SS業界はこの合成燃料が現施設での継続経営につながるものであり、大きく期待する次第である。
		スポーツ	やっとスポーツを楽しむ環境になったかと思えば、季節外れの酷暑である。小・中学校の野球、サッカー、テニス等の野外種目は様子見で、体育館内の種目も館内は蒸し風呂となり、練習や試合がなかなか捗らなくて困っている。晴天はありがたいが、これ程暑いと支障が出ている。高校野球の予選も始まるので、少しでも組合員のビジネスに繋がればと思っている。上海のロックダウンがここに来てポディーローのようにきいてきた。
	商店街	熊野市	昨年に比べ、コロナ過での影響はだいぶ戻りつつあるが、ウクライナ情勢等の影響での物価上昇は各事業者にとっても厳しいものとなりつつある。これからの消費を期待していた事業者にとっては先行きを不安視する声も多く、今後はなにかしらの国の対応が急務であると感じる。
	サービス業	旅館	6月は梅雨時でもあり、夏休み前でもあることから、通年オフの月であるが、全体に盛り上がりがない集客であった。県民割は健闘していたが、全体を押し上げるまでには至らなかった。業績は対前年比200%~300%、2019年比60%~80%程度であったが、業態等によって業績に差が出てきたようでもある。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年6月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
建設業	総合工事業	昨年度の県内建設企業の公共事業における元請完工高は、136,298百万円であった。一昨年は136,756百万円であり、微減となった。昨年度の国・県の公共事業予算は前年度に比べ増加していたにもかかわらず、このような結果となり、一定の危機感を持っている。この状況の中、4月、5月の県内建設業の請負金額は、前年度同期に比べ、28%の減となっている。建設資材の単価の高騰が予想される中、発注量の減少は、県内建設企業の経営への影響が懸念される状況である。
	内装工事業	6月分は前年同月比で少しマイナスとなった。コロナや円安の悪い影響があり、今後どうなるのか予測が難しい。
	水道工事業 (亀山)	資材価格の上昇、入手困難な状況は変わらない状況下にある。仕事はストップするような状態ではないが、まだまだ先行きは不透明な状況下にある。
運輸業	トラック	軽油価格は一旦先月値下がりしたものの、6月に入り再び上昇に転じ、事業者経営を圧迫する事となった。電子デバイス部門の先行きに陰りが見えてきており、関連する輸送も先月に比べ減少した。自動車関連については、トヨタ、ホンダとも正常稼働に戻りつつあるものの、上海でのロックダウンの影響から後半は生産台数が減産される事となったため、依然として輸送は回復する事ができなかった。スーパー、小売関係では、消費者物価上昇の影響から、減少に転じており、関連する輸送もその影響を受ける事となった。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今後、HACCPの取組みが必要になってきている。また、補助金等を活用して取組んでいきたいと思う。
一般機器	四日市	コロナ緊急事態宣言も解除され小康状態となったり、一部大企業の設備投資が上向きとなって来たが中小製造業にその好影響が及んでいるのはごく一部であり、長期化している海外の紛争や円安により、物価、原価が上昇し続けても販売価格に転嫁できず、資材の納期長期化により稼働が停滞するといった企業も多くみられる、そういった現状の把握ときめ細やかな支援を希望している。
サービス業	旅館	昨今のエネルギーコストの高騰と食材の値上がりは原価を圧迫している。売上が落ちて、原価が上がってしまったら利益は確保できない。物価高騰対策も必要ではあるが、「Go to トラベル」に替わる「旅行支援」の制度を1日も早く実施してもらいたい。